県内9か所の農業改良普及センターからの新鮮な現地情報をお届けいたします。

みやぎの　８月号
農業普及現場

普及活動標語

思いを形に,あなたのチャレンジ支えます。
応援します。農業普及

NEWS LETTER No.186　2022.8

紹介内容（7/1～7/31）

１．みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技術の活用等による生産基盤の強化

①　先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

○　仙　台農改：雇用を目指し，管内農業法人を視察しました
○　気仙沼農改：令和４年度気仙沼・南三陸いちご農薬研修会を開催しました
○　美　里農改：南郷高校作物専攻３年生を対象とした「みやぎ農業未来塾」を開催しました

②　新たな担い手の確保・育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２

○　石　巻農改：石巻地区４Ｈクラブ７月青空市と第４回定例会の開催
○　大　崎農改：大崎４Ｈクラブの視察研修会を開催しました！
○　登　米農改：登米市農業士会歓送迎会が開催されました
○　大河原農改：仙南農業士会総会と研修会が開催されました
○　大　崎農改：大崎４Ｈクラブが取り組む親子農業体験の家庭菜園講座の講師として協力しました
○　美　里農改：農業大学校１年生による普及センター訪問が行われました

③　先端技術等の推進・普及による農業経営の効率化・省力化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３

○　仙　台農改：第３回水稲乾田直播栽培勉強会を開催しました
○　美　里農改：子実用とうもろこし生産拡大に向けた栽培講習会が行われました
○　仙　台農改：令和４年度「だて正夢」地域栽培塾を開催しました
○　仙　台農改：令和４年度「金のいぶき」地域栽培塾を開催しました
○　気仙沼農改：水稲あぜ道相談会が開催されました
○　石　巻農改：水稲乾田直播栽培の現地検討会が行われました

④　園芸産地の育成・強化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５

○　石　巻農改：河北ミニトマト部会現地検討会が開催されました
○　石　巻農改：やもと切花現地検討会の開催
○　仙　台農改：ＪＡ新みやぎあさひなりんご部会の現地検討会が開催されました
○　栗　原農改：シャインマスカット栽培技術研修会を開催しました
○　登　米農改：スターチス出荷査定会が開催されました
○　石　巻農改：石巻管内ばれいしょ現地検討会を開催しました！
○　大　崎農改：土産センターに出荷する花き生産者に向けて露地ギクの研修会を行いました
○　登　米農改：ＪＡみやぎ登米にら部会現地検討会が開催されました
○　登　米農改：ピーマンの現地検討会及び出荷査定会が開かれました
○　気仙沼農改：ＪＡ新みやぎ南三陸地域花卉生産協議会の現地検討会が開催されました
○　栗　原農改：加工用ばれいしょ現地研修会を開催しました
○　仙　台農改：ＪＡ新みやぎあさひなぶどう部会の摘粒講習会が開催されました
○　亘　理農改：令和４年産いちご出荷反省会が開催されました
○　登　米農改：登米ぽてと組合現地検討会が開催されました
○　亘　理農改：いちご親株苗増殖ほの定期巡回を実施しました

このニュースレターは，ホームページ(カラー版)でご覧になれます。https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nosin/gennba1.html
このニュースレターに掲載している情報を一足早く紹介するブログもあります。https://blog.goo.ne.jp/miyagifukyu

○　石　巻農改：アスパラガス栽培管理勉強会（支柱・病害虫編）の開催
○　仙　台農改：えだまめ先進地視察研修会を開催しました
○　登　米農改：ＪＡみやぎ登米花卉部会の菊出荷査定会及び現地検討会が開催されました
○　美　里農改：４年ぶりの「宮城県なし現地検討会」が，美里町で開催されました
○　仙　台農改：ＪＡ新みやぎあさひなねぎ部会栽培講習会が開催されました
○　仙　台農改：みやぎ農業未来塾～果樹農業後継者育成講座～を開催しました！
○　大　崎農改：令和４年度加美郡りんご協議会現地検討会
○　仙　台農改：利府地区梨部会現地検討会が開催されました
○　大　崎農改：えだまめの現地巡回指導会が開催されました！
○　亘　理農改：いちじく栽培研修会が開催されました
○　登　米農改：ＪＡみやぎ登米なす部会の現地検討会が開催されました
○　石　巻農改：河北せり振興協議会の総会・栽培講習会が開催されました
○　亘　理農改：「なとり・ぐるっと親子講座夏野菜もぎとり体験」が開催されました
○　登　米農改：ＪＡみやぎ登米りんご生産部会の病害虫防除講習会及び現地検討会が開催されました

⑤　収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
○　大　崎農改：令和４年産の小麦，まもなく収穫時期を迎えます！
○　大　崎農改：令和４年産小麦の成熟期調査を行いました
○　石　巻農改：子実用とうもろこしが発芽しました！
○　石　巻農改：子実用とうもろこしの生育調査を行いました
○　石　巻農改：「萌えみのり」の現地検討会が開催されました！
○　大　崎農改：ささ結びブランドコンソーシアム幹事会が開催されました
○　登　米農改：令和４年度「登米地域だて正夢栽培塾」を開催しました
○　大　崎農改：金のいぶき・だて正夢の現地検討会を実施しました
○　大　崎農改：大崎の米『ささ結』栽培現地検討会が開催されました
○　栗　原農改：「だて正夢」・「金のいぶき」現地検討会を開催しました

⑥　時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
○　気仙沼農改：「蔵の華」の栽培研修会を開催しました
○　大　崎農改：水稲採種ほの審査を実施しました

２．多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・機関との連携による持続可能な農業・農村の構築
①　地域資源の活用等による地域農業の維持・発展・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
○　仙　台農改：農事組合法人うぇすとファーム仙台による「たまねぎ収穫体験」テスト開催！
○　気仙沼農改：南三陸町で「田んぼの生き物観察会」が開催されました
○　石　巻農改：世代を超えた女性農業者の交流を行いました
○　美　里農改：食品表示・包装資材セミナーを開催しました

②　環境に配慮した持続可能な農業生産・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
○　大　崎農改：環境に優しい農業の強い味方「アイガモロボ」等スマート農機が稼働しています！
○　石　巻農改：グリーンな栽培体系への転換サポート推進会議を開催しました！
○　仙　台農改：令和４年度第１回ＪＡ仙台稲作部会協議会が開催されました
○　登　米農改：「グリーンな栽培体系」の現地検討会とドローン追肥を行いました
○　栗　原農改：志波姫地区環境保全米栽培現地検討会が開催されました

１．人材育成・生産基盤の強化

①先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援

○雇用を目指し，管内農業法人を視察しました

令和4年７月26日
仙台農業改良普及センター

令和４年７月 11 日(月)に，仙台市内で土地利用型農業を営む「農事組合法人あきう生産組合」の役員７名が，大郷町の「みどりあーと山崎株式会社」を視察しました。

あきう生産組合は構成員の高齢化に伴い，従業員の事業継承も視野に入れ，従業員の雇用を検討してきましたが，諸般の事情により，なかなか実現できない状況が続いています。そこで，経営規模等が似ている土地利用型法人「みどりあーと山崎株式会社」を視察し，雇用を導入するきっかけや，実際に雇用するにあたって注意すること，従業員募集の方法，冬期間の作業などについて話を聞きました。参加者は熱心に質問し，活発な意見交換がされました。

普及センターでは，今後も農業法人等の経営安定に向けた支援を継続していきます。

○令和４年度気仙沼･南三陸いちご農薬研修会を開催しました

令和4年７月29日
気仙沼農業改良普及センター

令和４年７月 22 日(金)，気仙沼合同庁舎を会場にいちご農薬研修会を開催しました。今回の研修会はいちごの生産額増大に向けて，課題となっている病害虫防除について効果的な防除体系の理解・実践を目指すもので，生産者４名と関係機関２名が参加しました。講師には日本化薬株式会社を迎え，①気門封鎖剤及び展着剤の効果的な利用方法 ②ハダニ類・アザミウマ類などの難防除害虫の防除 ③炭そ病・うどんこ病などの各種病害の防除の３テーマをそれぞれ御説明いただきました。

農薬の使用方法の講演では，気門封鎖剤及び展着剤の成分の違いや効果について詳細に説明いただきました。また，日本化薬株式会社の製品「フーモン」について紹介があり，気門封鎖剤と展着剤の効果を併せ持つ薬剤の有用性について解説いただきました。また，病害虫防除の講演では，早期防除による害虫の密度抑制及び殺菌剤の予防散布について説明いただき，改めて早期防除の重要性を確認したほか，抵抗性発達リスクを考慮したローテーション散布の必要性について，模式図を用いて分かりやすく解説いただきました。

講演全体を通して，生産者全員から様々な質問があり，参加者同士で積極的に意見交換を行う様子がみられました。気仙沼農業改良普及センターでは，管内のいちごの収量向上に向けて，関係機関との連携を図りながら引き続き支援していきます。

○南郷高校作物専攻３年生を対象とした「みやぎ農業未来塾」を開催しました

令和4年７月29日
美里農業改良普及センター

美里農業改良普及センターでは，農業高校の生徒が地域農業への理解を深めることで進路選択の一助となるよう，管内先進農家の視察研修を昨年から行っています。

２回目となる今回は，涌谷町で酪農経営を行う齋藤常浩氏を，南郷高校作物専攻３年生４名と引率教諭１名で，７月 25 日に視察しました。

齋藤氏は，令和２年に法人化し，酪農と水稲，飼料作物の複合経営を行っています。また，宮城県指導農業士として，農業大学校の先進農業体験学習受入を行うなど，後継者の育成に積極的に取り組んでいます。

当日は，飼料用とうもろこしのほ場を前に，飼料生産の状況や，集団で刈り取り作業を行う取り組み等について話を伺いました。

見学をした場所は，農業を身近に感じてもらおうと，２ｈａのデントコーン畑を巨大な迷路にしたほ場です。齋藤氏が実行委員会の委員長を務め，昨年度は 1,500 人の来場があるほど好評だったため，今年も７月末にイベントを開催します。実際に生徒も迷路を体験させていただき，時折，歓声を上げながら駆け巡り，約 20 分かけてゴール(出口)に到着しました。

普及センターでは今後も管内の農業高校と連携を図り，地域農業への理解を深める活動支援し，将来の担い手確保に向けた取組を行っていきます。

②新たな担い手の確保・育成

○石巻地区4Hクラブ6月青空市と第4回定例会の開催

令和4年７月4日
石巻農業改良普及センター

現在，石巻地区４Ｈクラブは，石巻市と東松島市の農村青少年が次代の農業を担う知識と技術の習得を図るため，クラブ員 13 人で情報交換や研修，青空市など自主活動を行っています。

６月 27 日に宮城県石巻合同庁舎ロビーにおいて，石巻地区４Ｈクラブが６月青空市を開催しました。クラブ員が生産した新鮮な野菜（きゅうり，大玉・中玉トマト，ブロッコリー，玉ねぎ，じゃがいも，ニンジン，ねぎ，アスパラガスの９品目）や花壇苗を直売し，消費者との交流を行いました。朝穫りしたきゅうりやブロッコリーなどは新鮮で安いと好評で，一般県民の方や合庁の職員など約 130 人のお客様が訪れ完売しました。

青空市終了後の定例会では，会員勧誘を兼ねた「若手農業者ＢＢＱ交流会」の開催や８月にに南三陸町で開催される「県青年のつどい」への参加と対応を話し合いました。

現在，石巻地区４Ｈクラブは 13 人で活動していますが，普及センターでは若手農業者の農業知識と技術の習得に加え，楽しい行事や活動による仲間づくりを支援していきます。

○大崎4Hクラブの視察研修会を開催しました！

令和4年７月5日
大崎農業改良普及センター

大崎４Ｈクラブでは，クラブ員の資質向上を図るため，毎年視察研修会を実施しています。

今年は法人化に興味のあるクラブ員が多いことから，先進的な農業法人である株式会社原グリーンサービスと株式会社宮城フラワーパートナーズの視察研修会を実施しました。

原グリーンサービスでは，若手の女性社長が社員に与える良い影響や，社長として会社を運営することの大変さを教えていただきました。

宮城フラワーパートナーズでは，作業を効率化するための様々な工夫や社員を呼び込むためのテクニックなど，法人として重要となる職場環境作りについて学びました。

クラブ員からは，「法人を経営する上で大切な考えを学ぶことができた。とても実のある研修になってよかった」との声が聞かれました。普及センターでは今後も４Ｈクラブ員の関心の高い研修会の開催を支援し，将来地域の核となる担い手の育成に取り組んでいきます。

○登米市農業士会歓送迎会が開催されました

令和4年７月7日
登米農業改良普及センター

令和４年６月 24 日（金），令和４年度登米市農業士会歓送迎会が開催されました。

当管内では，令和３年度末まで青年農業士として活動いただきました山内健太郎さんが，令和４年度から新たに指導農業士として認定されました。

山内さんからは，「これまでの自分の経営を振り返ると，周りの人に勧められたことを断らないで受け入れ，挑戦してきたことが良かったと感じている。今後，指導農業士として若い農業者の支援に関わる際には，関係農業者・機関からの助言や支援に尻込みせずに，それぞれの経営発展に挑戦していくよう助言したい。」との抱負が述べられました。

普及センターでは，今後も登米市農業士会と連携しながら，新規就農者等への支援活動を継続していきます。

○仙南農業士会総会と研修会が開催されました

令和4年７月 25 日
大河原農業改良普及センター

令和４年７月７日に，「令和４年度仙南農業士会総会・研修会」が開催されました。
今年度の事業計画・予算の承認を受け，令和４年度の仙南農業士会が本格的に始動しました。
コロナ禍以降，現地研修会や交流会の中止が相次ぎましたが，今年度はコロナ禍前と同規模の事業計画となり，初冬には，交流会を予定しています。
また，令和３年度で退任された農業士の方へ記念品の贈呈が行われました。長い間ありがとうございました。
総会終了後，最初の活動として研修会が開催されました。大河原労働基準監督署とヤンマーアグリジャパン株式会社東北支社より講師を派遣していただき，農作業安全に関する研修を受けました。
地域農業の中心を担う農業士の方々も熱心に拝聴し，改めて農作業安全への意識を高めていました。

○大崎4Hクラブが取り組む親子農業体験の家庭菜園講座の講師として協力しました
令和4年７月28日
大崎農業改良普及センター

大崎４Ｈクラブが，令和４年７月 10 日(日)に大崎生涯学習センターとともに「親子でいっしょに農業体験＆家庭菜園講座」を開催しました。大崎地域在住の小学生とその親を対象に，農業へ興味を持ってもらうことや，食育を目的として毎年取り組んでいるイベントです。
今回は，親子 19 組，約 40 人が参加しており，大崎農業改良普及センター職員が講師となり，つるなしインゲンのプラスチックバッグへの植え付けの方法や豆に関する話題提供を行いました。
大崎農業改良普及センターでは，今後も大崎地域の青年農業者の活動の支援に取り組んでまいります。

○農業大学校1年生による普及センター訪問が行われました
令和4年７月29日
美里農業改良普及センター

宮城県農業大学校では１学年次に先進農家での体験学習を行っており，美里管内では８名の学生を農業法人等で受け入れる予定となっています。体験学習に先立ち，当普及センターを学生が訪問しました。
普及センター担当より受け入れ農家の経営概要について説明を行いました。その後，学生からは，研修先の経営の特徴などについて積極的に質問していました。
最後に，1 人ずつ研修に当たっての決意表明を行い，「生産技術をしっかり学びたい。」「人との交流が多い研修先なので，コミュニケーションを大切にしたい」などの抱負を述べました。
先進農家体験学習は９～10 月に 33 日間行われ，学生は農業者のもとで農業技術や経営について直接学びます。

③先端技術等の推進・普及による経営効率化・省力化

○第3回水稲乾田直播栽培勉強会を開催しました
令和4年７月13日
仙台農業改良普及センター

当普及センターでは，今年度から「水稲乾田直播栽培の技術定着による収量向上」をプロジェクト課題に位置付け，定期的に「水稲乾田直播栽培勉強会」を開催しています。令和４年６月 22 日に３回目の勉強会を開催し，生産者 13 名の参加がありました。
今回は雑草防除と水管理をテーマに，普及センターから基本的な今後の栽培管理について説明しました。その後，乾田直播栽培に長年取り組んでいる農事組合法人仙台中央アグリサービスの代表から今年行っている雑草防除と水管理についてポイントをお話いただきました。水管理については，共感する部分が多いのか，参加者は何度も頷きながら耳を傾けていました。
また，勉強会参加者の今年の雑草防除方法や，入水，落水のタイミングに関する悩み，粘土質ほ場における播種前のほ場準備の方法について，活発に意見や質問が交わされ，有意義な時間となりました。勉強会終了後も，農事組合法人仙台中央アグリサービスが保有する農業機械の見学に行くなど，栽培者同士の交流も見受けられました。
普及センターでは，今後とも水稲乾田直播栽培の技術定着を支援してまいります。

○子実用とうもろこし生産拡大に向けた栽培講習会が行われました

令和4年７月15日
美里農業改良普及センター

涌谷地域農業再生協議会では，国産濃厚飼料として子実用とうもろこしの栽培実証試験の取組みを始めました。子実用とうもろこしは，自給飼料生産による畜産経営の安定化だけでなく，深根性によるほ場の排水性改善や，茎葉のすき込みによる緑肥といった後作への効果も期待されます。

６月 27 日に，涌谷地域農業再生協議会主催で，栽培講習会及び現地圃場見学が行われました。

前半の栽培講習会では，農研機構東北農業研究センター篠遠研究員から子実用とうもろこし栽培に係る他県の情報や排水対策や播種床造成等の播種時の注意事項について講演いただきました。また，畜産試験場から，令和元年度までの試験結果と，それに基づいた令和４年度現地試験の概要について説明しました。後半の現地圃場見学では，４月 20 日に播種したほ場の生育状況について確認しました。

普及センターでは，子実用とうもろこしの生産など，省力で高収益な転作作物の導入に向けた支援を行っていきます。

○令和4年度「だて正夢」地域栽培塾を開催しました

令和4年７月21日
仙台農業改良普及センター

水稲品種「だて正夢」はデビュー５年目となり，今年度管内の作付面積は約 74ha，登録生産者数は 53 人となっています。

令和４年７月６日及び７日に，２会場（仙台会場，黒川会場）で「だて正夢」地域栽培塾を開催しました。普及センターから，今年度の生育状況や品質基準の達成に向けた追肥等の今後の栽培管理，病害虫の発生予察について説明をしました。また，現地ほ場において耕種概要について説明するとともに，幼穂長や葉色の確認を行い，生育状況や今後の水管理，追肥について検討しました。

また，栽培塾では，今後の追肥や病害虫防除等について生産者同士の意見交換も活発に行われていました。

今後とも普及センターでは「だて正夢」の生産安定に努めてまいります。

○令和4年度「金のいぶき」地域栽培塾を開催しました

令和4年７月21日
仙台農業改良普及センター

水稲品種「金のいぶき」は宮城県が育成した玄米ブランドです。通常の玄米の３倍と大きい胚芽部分には，GABA や食物繊維・ビタミン E などの栄養成分が豊富に含まれており，注目を集めています。今年度管内の作付面積は約 18ha，登録生産者数は 10 人となり，作付面積と登録生産者数ともに昨年までに比べて増加しています。

令和４年７月６日に，「金のいぶき」地域栽培塾を開催しました。普及センターから，今年度の生育状況や，収量増加のための追肥等今後の栽培管理について説明をしました。現地ほ場では耕種概要について説明するとともに，葉色の確認を行い，今後の追肥や水管理について検討しました。また，生産者同士の意見交換も活発に行われていました。

今後も普及センターでは，「金のいぶき」の生産安定等に努めてまいります。

○水稲あぜ道相談会が開催されました

令和4年７月25 日
気仙沼農業改良普及センター

令和４年７月６日から８日の３日間，気仙沼市，南三陸町の各営農センター管内で，ＪＡ新みやぎ主催の水稲あぜ道相談会が開催されました。
気仙沼４か所，志津川１か所の計５か所の水田を会場に，合計 27 名の農家が参加しました。
相談会では，気仙沼農業改良普及センターから現在の生育と今後の注意点について，農薬販売店・メーカーから，病害虫の防除について説明し，管理の要点を確認しました。
今年は６月上旬の低温で生育が停滞した一方，６月中旬以降は記録的な高温で，水稲の生育も早まるという気象推移の中，いずれのほ場も生育は良好で，雑草もきれいに抑えられていました。参加した農家からは，今後予定されるいもち病や斑点米カメムシ類の防除，後発雑草等の管理や高温下での水管理，追肥等について，熱心に質問が挙がり，盛んに情報交換が行われました。
普及センターでは，ＨＰで随時稲作情報を発行するとともに，現場の相談にも対応していますので，お気軽にお問合せください。

○水稲乾田直播栽培の現地検討会が行われました

令和4年７月26 日
石巻農業改良普及センター

令和４年７月 15 日にＪＡいしのまき主催の水稲乾田直播現地検討会が開催されました。石巻管内では，直播栽培面積 870ha のうち約 95%で乾田直播栽培が行われており，面積は年々増加傾向にあります。当日は生産者ら約 45 人が集まり，関心の高さを伺わせました。
検討会では，乾田直播栽培ほ場４か所（桃生，河北，河南，赤井）を巡回して，葉色値や幼穂長を測定しながら，追肥の要否や出穂日について検討しました。講師の東北農業研究センター研究員からは，葉色値が 35 以下と淡くなっているほ場に対しては，出穂 10 日前の減数分裂期に窒素成分で１kg の追肥をしてはどうかや幼穂長が５～10mm 程度なので出穂期は８月上旬になるだろうといったアドバイスがありました。
当普及センターでは，今後とも水稲乾田直播栽培の普及と技術支援に取り組んでいきます。

④園芸産地の育成・強化支援

○河北ミニトマト部会現地検討会が開催されました

令和4年７月4日
石巻農業改良普及センター

令和４年６月 20 日に石巻市河北地区にてＪＡいしのまき主催のミニトマト部会河北北上支部の現地検討会が開催されました。８人の生産者が参加し，各生産者のほ場を巡回し検討を行いました。
今年の生育状況は，６月上旬の曇天による日射量不足や低温傾向で推移したため，収穫開始時期が遅れています。こうした状況を踏まえ，普及センターからは出荷に向けての病害虫防除についての情報提供を行いました。
普及センターでは今後とも栽培管理や巡回などを行いながら，ミニトマトの安定生産の支援を行います。

○やもと切花現地検討会の開催

令和4年７月4日
石巻農業改良普及センター

６月 28 日にＪＡいしのまきやもと切花生産組合現地検討会が開催され，３ほ場を回りました。
Ａ氏の鉄骨施設の輪ぎくとスプレーぎくは，蒸気での土壌消毒後の５月上旬直挿し，６月中旬消灯，８月盆出荷予定で生育は概ね順調でした。
Ｂ氏の施設ぎくは６月中旬消灯で，夕方６時から朝６時まで短日処理中。直売所向けに白と黄色の輪ぎくやスプレーぎく数品種を同時栽培しており，栽培管理に苦労していました。
Ｃ氏の８月盆用の輪ぎくとスプレーぎくは自家育苗の５月上旬定植，６月中旬に消灯しましたが，潅水不足により生育にバラツキがありました。
総合検討では，８月盆用施設ぎくの生育は概ね順調ですが，梅雨明けが早く，ハダニやスリップス等の

害虫防除の徹底と高温障害に注意するよう普及センターから助言しました。

○JA新みやぎあさひなりんご部会の現地検討会が開催されました

令和4年 7 月4日
仙台農業改良普及センター

ＪＡ新みやぎあさひなりんご部会の現地検討会が６月 28 日に開催され，部会員３名が参加しました。

当日はそれぞれの園地を巡回しながら,栽培管理や生育，病害虫の発生状況等の確認を行いました。４月末にあった降雪の影響はほぼ無く，果実肥大は良好でしたが，一部園地で，病害虫の発生が見られました。

普及センターからは，病害虫防除や新梢管理等について指導しました。また，参加者同士で各園地の生育状況や管理状況等について熱心に意見交換が行われ，自分の園地の管理方法を見直す良い機会となったようです。

普及センターでは今後も情報提供や技術指導を行い，果樹の安定生産を支援していきます。

○シャインマスカット栽培技術研修会を開催しました

令和4年 7 月4日
栗原農業改良普及センター

令和４年６月９日（木），栗原市金成のシャインマスカット栽培園地で，「シャインマスカット栽培技術研修会」を開催しました。

栗原地域では，水稲育苗ハウスを活用したシャインマスカット等のぶどう栽培が行われており，新たな園芸品目として平成 30 年度から園芸振興を目指す栗原圏域産地戦略プランの重点振興品目に位置付けられています。

今回の研修では，ジベレリン処理のタイミングと処理手法に留意した房づくり技術の習得を目指し，シャインマスカットをすでに導入している生産者及び今後導入意向のある方々，合わせて 33 名ほどが集まりました。

始めに，普及センターで作成した「栽培暦」と「ジベレリン処理の留意点」について実践を交えて説明した後，花振いのメカニズムを図で解説し，肥培管理や適時適切な作業が良質な房づくりにつながることを説明しました。

その後，地域でも早期にシャインマスカットを導入し，栽培経験を積み重ねている田中学さんを講師に，房づくりのポイントや新梢管理について実演を交えながら講義をいただきました。

参加者からは，日頃の管理作業で迷っている点や疑問に感じている部分についてたくさんの質問が出され，房づくり技術習得への高い意欲が伺えました。

本研修会は年間３回を予定しており，次回は収穫適期の見極め・目揃いをする予定です。

○スターチス出荷査定会が開催されました

令和4年 7 月5日
登米農業改良普及センター

スターチス・シヌアータの出荷最盛期を前に，令和４年６月９日にＪＡみやぎ登米花卉部会スターチス専門部の出荷査定会が大瀬集出荷場で開催され，専門部員，市場担当者，関係機関を含めて 15 人が参加しました。

当日に出荷されたスターチスを見ながら出荷規格について確認し，仙台市場の株式会社仙花の担当者から助言指導を受けながら，長さ，曲がり，ボリュームの有無による，秀・優クラスの格付けや箱詰めについてなど，熱心に話し合いが行われました。

また，市場からはスターチスの販売状況について情報提供があり，普及センターからは梅雨入り後の栽培管理について説明しました。ＪＡみやぎ登米では共選出荷が行われており，出席した生産者は産地一丸となった市場評価の向上に向け，気持ちを新たにしていました。

普及センターでは引き続き産地発展に向けた支援を行ってまいります。

○石巻管内ばれいしょ現地検討会を開催しました！

令和4年 7月6日
石巻農業改良普及センター

令和４年６月 24 日に石巻管内の加工用ばれいしょ現地ほ場において，「石巻管内ばれいしょ現地検討会」を開催しました。当管内は令和４年度に新たに２法人が加工用ばれいしょ栽培を開始し，管内の面積は令和３年度から 11ｈａ増加の 35ｈａとなりました。

新たな取組法人が栽培管理等について理解が深められるよう，契約先であるカルビーポテト株式会社やＪＡいしのまき,当普及センター等 25 人が参加し，検討を行いました。

普及センターよりこの時期に発生する病害虫について，カルビーポテト(株)の和田氏より病害虫防除や雑草防除，葉面散布などの追肥について説明した後，現地ほ場３ヶ所で意見交換を行いました。栽培に取り組んでいる法人から，今後収穫に向けて準備すべきことなどのアドバイスもあり，参加法人からは，他の生産現場を見ることができ，ほ場を見ながら質問できて良い勉強になったとの感想をいただきました。

今後も，普及センターではばれいしょ栽培の支援を行い，管内の園芸特産振興を進めていきます。

○土産センターに出荷する花き生産者に向けて露地ギクの研修会を行いました

令和4年 7月6日
大崎農業改良普及センター

大崎農業改良普及センターでは，令和４年６月 20 日に，加美町にある土産センターと連携し，露地ギクの栽培技術について研修を行い，生産者 14 名が参加しました。今回は，病害虫の防除や輪ギクの芽かきなど，盆出荷に向けた栽培管理を改めて確認しました。普及センターからの情報提供の後は，部会員のほ場を見学しながら，開花調節の仕方やほ場管理についてなど，生産者同士が活発に意見交換を行っていました。参加した生産者からは，「他の生産者と意見交換ができ，大変有意義な研修会だった」との声が聞かれました。

今後は，盆出荷に向けて，出荷時の開花の程度などを決める出荷検討会を開催する予定です。

普及センターでは，今後も大崎地域の花き栽培の支援に取り組んでまいります。

○JAみやぎ登米にら部会現地検討会が開催されました

令和4年 7月8日
登米農業改良普及センター

令和４年６月 27 日に，ＪＡみやぎ登米にら部会現地検討会が開催され，部会員 22 人が参加しました。新型コロナウイルスの影響で１年ぶりの部会活動となった今回は，現地検討の中でベテラン生産者が新規参入の生産者に調製方法を伝授するなど，活発なコミュニケーションが行われました。

普及センターからは，雨が多くなるシーズンであることから，薬剤散布の注意点などについて確認したほか，夏季の農作業では特に，熱中症対策を万全に取るよう呼び掛けました。

既に春から収穫時期に入っていますが，夏刈のおいしいにらは７月以降収穫時期を迎えます。皆さんも，ぜひ登米のにらを食べてみてください！

○ピーマンの現地検討会及び出荷査定会が開かれました

令和4年 7月8日
登米農業改良普及センター

令和４年７月１日に，ＪＡみやぎ登米主催のピーマン現地検討会及び出荷査定会が開かれ，生産者 18 人が参加しました。

登米地域では昨年からピーマンの生産が本格化し，新しい品目として注目を集めています。今年は生産者の数も昨年と比べ大幅に増加し，講習会や現地検討会などの情報交換が盛んに行われていました。

今回の現地検討では，会場となったほ場の株を実際に用いて整枝の実演が行われたほか，管理の方法や追肥について盛んに意見交換が行われました。また，出荷査定会では，初めて栽培・出荷する生産者が多数いることから，調製方法や規格等について全農みやぎから丁寧な説明がありました。

今後もピーマンの生産拡大に向け，支援を行ってまいります。

○JA新みやぎ南三陸地域花卉生産協議会の現地検討会が開催されました

令和4年 7 月 11 日
気仙沼農業改良普及センター

令和４年７月４日，南三陸町入谷の露地ぎくほ場を会場に，南三陸地域花卉生産協議会主催による現地検討会が開催され，生産者６名，ＪＡ職員３名，普及センター１名が参加しました。

８月盆出荷用と９月彼岸出荷用の露地ぎく（輪ぎく及び小ぎく）の生育状況や病害発生程度を複数の生産者で確認し，今後の栽培管理などについて話し合いました。

露地ぎくの生育は概ね順調ですが，生産者の多くのほ場がやや乾燥していることから，ハダニが発生しており，ダニ剤の種類や散布方法について活発な意見交換がなされました。

その後，普及センターの調査研究として取り組んでいる赤色 LED を使った露地ぎく電照栽培の試験ほ場を見学しました。

輪ぎく等各品種の草姿を見ながら，露地電照栽培に適した品種選定について意見交換が行われました。

普及センターでは，今後の栽培管理や病害虫防除についての情報を提供しながら，南三陸地域の花き生産を支援していきます。

○加工用ばれいしょ現地研修会を開催しました

令和4年 7 月11日
栗原農業改良普及センター

令和４年７月１日(金)，登米市中田浅水地区の加工用ばれいしょほ場と，ＪＡみやぎ登米なかだ営農経済センターを会場として，「加工用ばれいしょ現地研修会」を開催しました。

今回の研修は，加工用ばれいしょの栽培管理等のポイントを学び，収量向上につなげるとともに，生産者間の情報交換を図ることを目的とし，栗原管内から生産者２名，新規栽培予定者１名及び土地改良区２名，登米管内から登米ぽてと組合員４名，ＪＡみやぎ登米及び登米農業改良普及センターの担当者が出席しました。

研修では，２ほ場を巡回し，生産者から栽培概要や収穫機械についてご説明いただきました。意見交換会では，登米農業改良普及センターから，登米管内の加工用ばれいしょ生産の取組について動画で紹介があった後，各生産者からそれぞれの栽培状況や作業方法について，ご説明いただきました。また，当普及センターからは，今年の３月に実施した全層心土破砕機「カットブレーカー」による排水対策について，情報提供を行いました。

参加者は，ほ場や作業機械を熱心に見学するとともに，培土の工夫や雑草対策についての活発な意見交換を通じて，土づくりの重要性を改めて理解したようでした。

当普及センターでは，ばれいしょの栽培技術向上と，高収益作物としてのばれいしょ導入検討に向け，今後も継続して支援していきます。

○JA新みやぎあさひなぶどう部会の摘粒講習会が開催されました

令和4年 7 月 12 日
仙台農業改良普及センター

令和４年７月６日に，大和町のぶどう「シャインマスカット」栽培ハウスを会場に，ＪＡ新みやぎあさひなぶどう部会の講習会が開催され，部会員 20 名が参加しました。

当普及センターが講師となり，仕上げ摘粒方法や今後の作業等について説明を行いました。ぶどうハウス内では，実際に参加者とともに，最終着房数やジベレリン処理後の果実の生長状況等を確認しながら，各産地での摘粒方法の違いや目標房重に応じた着果数，今後の暑さ対策等について学んでもらいました。また，全農みやぎのぶどう販売担当者から，「仙台シャインマスカット出荷規格」案の説明等も行われ，今後，これらを元に，部会では出荷数量増加・品質向上に向けた活動をすすめる計画になっています。

普及センターでは，今後も，高品質なぶどうの生産や産地 PR に向けて，同部会を支援していきます。

○令和4年産いちご出荷反省会が開催されました

令和4年 7 月 13 日
亘理農業改良普及センター

令和４年産ＪＡいちご部会の出荷が６月 22 日に終了したことから，７月 12 日にＪＡみやぎ亘理いちご部会の令和４年産出荷反省会が開催されました。本年もコロナ禍での開催となり，部会役員をはじめ，ＪＡ全農みやぎ，各市場，普及センター等の関係機関の代表が参集（もしくはリモート参加）し，開催されました。

令和４年産の販売金額は 31 億８百万円（前年比 98%），出荷量 2,415 t（前年比 98%）の販売結果となりました。この結果は，震災以来最高額となった昨年に次ぐ２番目の実績であり，２年連続で 31 億円を上回る喜ばしい結果になりました。

令和４年産は，育苗中の７月中旬以降は高温で経過し，８月中旬から曇天が続くなど極端な天候となりました。曇天，低温の影響で例年よりも花芽分化は早まり，定植も前倒しとなりました。曇天は９月上～中旬の定植時期まで続き，その後は好天となり地上部の生育が早く進み，例年よりも 10 日程早い出荷傾向になりました。年明け以降は中休み期間がありましたが，３月上旬から一気に出荷量が増え，震災以降では最高の 4,000 梱包を上回る日もありました。天候が不安定であり，いちごの栽培が非常に難しい年でしたが，天候に合わせた栽培管理と，ＪＡ，ＪＡ全農みやぎ，各市場の販売努力により 31 億円を上回る結果となりました。

普及センターでは，今後もいちご産地を継続して支援してまいります。反省会は来期の更なる増収に向けた対策をまとめ，部会員に伝えることとし，閉会となりました。

○登米ぽてと組合現地検討会が開催されました

令和4年 7 月13日
登米農業改良普及センター

令和４年６月 30 日，加工用ばれいしょ生産に取り組んでいる登米ぽてと組合の現地検討会が開催され，生産者のほか，契約先であるカルビーポテト株式会社の指導員や関係機関を含め 16 名が参加しました。

検討会では，各生産者のほ場を巡回し，試し掘り調査により，ばれいしょの肥大状況や病害虫の発生等が無いか確認を行いました。各生産者は，これまでの管理を振り返りながら，お互いの管理状況を参考にしようと活発に情報交換を行っていました。この時期は，ばれいしょの栽培も終盤に差し掛かりますが，高品質なばれいしょの出荷に向け，有意義な検討会となりました。

○いちご親株苗増殖ほの定期巡回を実施しました

令和4年 7 月 14 日
亘理農業改良普及センター

令和６年産用のいちご親株苗増殖ほの巡回指導について，令和４年４月 27 日から親株苗を出荷する 11 月上旬までの間，管内の親株苗（品種：「もういっこ」，「にこにこベリー」）生産者２名のほ場で実施しています。巡回は，公益社団法人みやぎ農業振興公社及び宮城県農業・園芸総合研究所，ＪＡ名取岩沼とともに，月２回生育状況の確認と栽培管理等の指導を実施しています。

これまでの生育は順調で，ランナーも順調に発生しています。病害虫に関しても適切な防除により抑えられています。

普及センターでは，ほ場の定期巡回指導を通して適切な栽培管理による健全な親株苗の生産を支援します。

○アスパラガス栽培管理勉強会（支柱・病害虫編）の開催
令和4年 7 月 14 日
石巻農業改良普及センター

令和４年７月７日，東松島市の(株)パスカファーム立沼を会場に生産者等 11 人が参加し，パイオニアエコサイエンス(株)の松永氏を講師に，アスパラガス栽培管理勉強会（支柱・病害虫編）を開催しました。

４月６日の勉強会（定植編）から３ヶ月が経過し，梅雨期から夏秋期までの株養成管理や病害防除のポイントについて講習しました。

松永氏は 80cm 程に成長したアスパラガスに触れ，「ここから夏場の管理が大事」と強調。黒いプラ板に茎葉を叩いてアザミウマ等の害虫を見つける方法や病害の中で一番怖い茎枯病の防除について，「天気予報から７月 17 日と８月 21 日の週に雨天が続くので，こまめに観察しながら農薬を散布しよう」と話されました。

次に，「植え穴は６月に野菜の培養土で覆土し，苦土石灰を株元施用するとよい。支柱は草丈 50cm 位になったら２ｍ間隔で支柱を立て,高さ 50cm にネット，１ｍ位にマイカー線を張って茎葉を抑え，秋までに茎 40～50 本を仕立てて株の充実を図ろう」と話されました。

次回のアスパラガス勉強会は，11 月頃に黄化・刈取りなどについて開催する予定です。石巻普及センターではＪＡいしのまきと連携し，アスパラガス採りっきり栽培（１年養成株全収穫栽培法）やパイプハウス立茎栽培を組合わせたアスパラガスの産地化を目指しています。

○えだまめ先進地視察研修会を開催しました
令和4年 7 月 14 日
仙台農業改良普及センター

令和４年７月 12 日に，大郷町内のえだまめ生産者を対象として，えだまめの先進地である大崎市古川地区で視察研修会を開催し，当日はえだまめ生産法人４社，計７名が参加しました。

視察研修会では，はじめにＪＡ古川富永調整所において，ＪＡ古川の担当者からえだまめ生産拡大の取組状況についてご説明いただき，大崎農業改良普及センターからはえだまめの栽培技術体系，水田転作における排水対策や収量向上の取組について情報提供いただきました。また，調整所内に保管されている収穫機械，出荷調整機械等の見学も実施しました。

その後，農事組合法人 大地・西荒井のえだまめ生産現場を視察し，耕種概要や導入品種，栽培の留意点などをご説明いただきました。

参加者は，収穫機械等を熱心に見学するとともに，先進地で取り組まれている実際の肥培管理方法について直接話しを聞くことで，自らの管理方法を見直す良い機会となったようです。

当普及センターでは，土地利用型法人によるえだまめ導入定着に向け，今後も継続して支援していきます。

○JAみやぎ登米花卉部会の菊出荷査定会及び現地検討会が開催されました
令和4年 7 月 15 日
登米農業改良普及センター

スプレーぎくの出荷最盛期に向けて，令和４年６月 16 日にＪＡみやぎ登米花卉部会菊専門部の出荷査定会及び現地検討会が大瀬集出荷場と中田町の栽培施設で開催され，専門部員，市場担当者，関係機関等 10 名が参加しました。

出荷査定会はコロナ禍の影響で３年ぶりの開催となり，市場関係者から販売状況や出荷にあたっての留意点について説明を受けるとともに，需要期に向けて計画的な出荷をお願いしたいとの依頼がありました。また，ＪＡ担当者からの説明により出荷規格を再確認し，市場が求める採花時の花の開き具合や収穫調製の仕方等について活発に意見交換が行われました。

現地検討会では近々収穫を迎えるハウスやお盆出荷用のハウスを巡回し，病害虫の発生もなく生育・品質とも良好であることを確認しました。さらに，普及センターから今後の病害虫防除等の栽培管理について情報提供を行いました。

普及センターでは引き続き産地発展に向けた良品生産への活動支援を行ってまいります。

○4年ぶりの「宮城県なし現地検討会」が，美里町で開催されました

令和4年 7 月 19 日
美里農業改良普及センター

県と宮城県園芸協会が共催する「宮城県なし現地検討会」が 7 月 14 日に開催されました。

本現地検討会は，県内の主な日本なし産地（蔵王町，角田市，利府町，美里町）において２年に１度，輪番で開催されてきました。新型コロナウイルス感染症拡大により，令和２年及び令和３年は開催を延期したため，今回は４年ぶり，美里町では 10 年ぶりの開催となります。

当日は主催者の宮城県園芸協会果樹専門部会長から開会あいさつを，開催地であるＪＡ新みやぎ北浦梨部会長から歓迎のあいさつを頂いた後，来賓を代表して美里町長から祝辞を賜りました。

現地検討会は２か所のなし園地を移動して，それぞれの園地の耕種概要の説明と参加者からの質疑応答を行いました。参加者からは，施肥時期や使用する肥料，せん定や摘果の方針等について質問が出されるなど，自らの園地や産地との違いについて積極的に検討が行われました。その後，園内を自由に見て回り，各園地の栽培管理や生育状況について詳しく視察するとともに，産地間での意見交換が行われました。

引き続き，北浦コミュニティセンターを会場に，宮城県農業・園芸総合研究所花き・果樹部（以下「農園研」）の職員を座長に総合討議を行いました。始めに，農園研と各産地の代表者から視察先園地に対する感想や講評コメントを発表し，各園主からは補足説明や今後の方針を説明しました。その他，凍霜害への対策に関する情報提供や果樹共済・収入保険制度の説明が行われるなど，新型コロナウイルス感染症対策を講じたため例年よりも短い時間ではありましたが，有意義な現地検討会となりました。

次回は２年後の令和６年に蔵王町を会場に開催が予定されています。

○JA新みやぎあさひなねぎ部会栽培講習会が開催されました

令和4年 7 月 19 日
仙台農業改良普及センター

令和４年７月 15 日にＪＡ新みやぎあさひなねぎ部会の栽培講習会が開催され，約 40 名の部会員が参加しました。

講習会では，普及センターから「今後注意を要する病害虫」と題して高温期に発生が問題となる病害を中心に被害症状や発生条件，防除対策について説明しました。ほ場をよく観察し，症状や発生状況に応じた適切な防除や，農薬のローテーションを考慮した効果的な防除の実施について指導を行いました。

ＪＡ新みやぎの担当者からは「管内の病害虫発生状況」として，管内各地区の現況について写真で紹介がありました。今年は，べと病の発生が多いことや，今後の雨で軟腐病の発生が懸念されることから，排水対策の徹底について説明がありました。

部会では，今年度は約 13 ヘクタール，部会員 73 名で，ねぎの栽培を行っており，生産者の意識も高いことから，普及センターでは生産安定のため，引き続き技術的支援を行っていきます。

○みやぎ農業未来塾～果樹農業後継者育成講座～を開催しました！

令和4年 7 月 19 日
仙台農業改良普及センター

令和４年７月 13 日に，当普及センター及び大河原農業改良普及センター共催で「みやぎ農業未来塾～果樹農業後継者育成講座～」を開催しました。両地域の若手果樹生産者の技術向上や交流を深めることを目的に開催し，ＪＡ仙台利府梨部会の若手梨生産者や大河原管内の若手果樹生産者に呼びかけ，計 13 名の参加がありました。

今回は，仙台ターミナルビル株式会社荒井事業所菊地秀喜専門監から，果樹ジョイント栽培に関する講話をいただきながら，同社が運営している「せんだい農業園芸センターみどりの杜」と「JR フルーツパ

ーク仙台あらはま」を視察しました。
当日は悪天候でしたが，梨やりんごのジョイント栽培の実践的な話を聞くことができ，参加者の関心も高く，質問が多数出ていました。
普及センターでは，今後も巡回指導やこのような視察等を通じて，果樹栽培技術の向上に向けた支援を継続していきます。

○令和4年度加美郡りんご協議会現地検討会
令和4年 7 月20日
大崎農業改良普及センター

加美郡内のりんご生産者 14 名で組織する加美郡りんご協議会は，毎年研修会や先進地視察などの調査・研究活動を精力的に行っています。
令和４年７月 15 日には，これら活動の一環として，参加者の園地を巡回し着果状況や病害虫発生状況などの確認を行う現地検討会を開催しました。当日はあいにくの雨模様となりましたが，御夫婦での参加もあり 14 名の方が出席しました。
今年度はこれまで６月中の梅雨明けやその後大雨が降るなど異常気象の年となっていますが，今のところ病害虫の発生も少なくほぼ平年並みの生育となっています。
普及センターからは調査ほのデータによる生育状況や今後発生が予想される病害虫防除等について情報提供を行いました。
当センターでは，今後も会員の技術向上のため，協議会活動の支援を行っていきます。

○利府地区梨部会現地検討会が開催されました
令和4年 7 月 22 日
仙台農業改良普及センター

利府地区梨部会の現地検討会が７月 15 日に開催され，部会員 32 名が参加しました。
当日現地検討会の会場となった園主から，「４月下旬の降雪により，サビ果や変形果の発生が見られたが，必要な着果量は確保している」，「６月の高温乾燥下で「幸水」にサビダニの発生が見られた」，「今後，新梢の誘引や最終の摘果作業を行い，高品質安定生産を目指して行きたい」などと説明がありました。
普及センターからは，これまでの気象経過，特に４月の降雪時の気温状況や果実肥大の状況，これからの新梢管理，病害虫防除のポイント等について説明をしたほか，７月下旬からメルマガ配信される，「宮城県病害虫防除所から病害虫発生予察情報」の活用について情報提供しました。
当日は，雨の中での開催となりましたが，それを苦ともせずに園地で樹を見ながら今後の栽培管理等について質疑や意見交換が活発になされ，今年の栽培に掛ける意気込みが感じられました。
普及センターでは，今後も情報提供や技術指導を行い，利府梨の安定生産を支援していきます。

○えだまめの現地巡回指導会が開催されました！
令和4年 7 月 25 日
大崎農業改良普及センター

令和４年７月 13 日，ＪＡ古川主催の転作枝豆現地巡回指導会が開催されました。古川地域は大豆の産地であり，作業機械や栽培技術などの有利性を生かして，大豆生産者を中心にえだまめの生産拡大に取り組んでいます。
指導会では，えだまめ生産者を各戸巡回し，現在の生育状況や病害虫の発生状況を確認しました。今年は降雨が続いたことで播種が遅れ，生育が遅れているほ場が多くみられます。今後の管理として，中耕培土や殺虫剤散布，晩生品種では摘芯作業の実施を呼びかけました。
普及センターでは，昨年度からプロジェクト課題として「えだまめの産地育成」に取り組んでいます。えだまめの栽培技術が確立できるよう，引き続き支援してまいります。

○いちじく栽培研修会が開催されました
令和4年 7 月 26 日
亘理農業改良普及センター

山元町の農水産物直売所「やまもと夢いちごの郷」では，山元町内で生産されているいちじくが販売されています。多くは甘露煮などの加工向けですが，一部，生食向けも販売されています。一方，山元町内のいちじく園地では難防除病害であるイチジク株枯病が広く発生しており，その対策に苦慮しています。

そこで，イチジク株枯病対策をテーマとした栽培研修会が，令和４年７月 19 日木曜日に山元町ふるさとおもだか館を会場として「やまもと夢いちごの郷」主催で開催され，町内のいちじく生産者 12 名が参加しました。

研修会では，当普及センターからイチジク株枯病の特徴や現在取組可能な対策について解説しました。併せて，（国研）農研機構育成のイチジク株枯病抵抗性台木「励行台１号」を紹介しました。

当普及センターでは，今後も管内のいちじく生産の支援を行っていきます。

○JAみやぎ登米なす部会の現地検討会が開催されました

令和4年７月26日
登米農業改良普及センター

令和４年７月 12 日，ＪＡみやぎ登米なす部会の現地検討会が開催され，生産者のほか，種苗会社や関係機関を含め 21 名が参加しました。

検討会では，部会で試験的に導入している新品種の生育や品質について，従来品種と比較しながら検討を行いました。新品種は従来品種と比較して，収量や品質は劣るものの，単為結果性で受粉作業が無くとも実が実る性質で着果処理作業が不要なことや樹勢が穏やかで整枝作業の負担が小さい特性があるとの評価がありました。生産者からは，省力化を優先する場合には導入する価値は高いとの感想が寄せられました。

普及センターでは，土壌診断による肥培管理指導など，新品種の品質向上に向けた支援を行っていきます。

○河北せり振興協議会の総会･栽培講習会が開催されました

令和47 月 27 日
石巻農業改良普及センター

７月７日に河北せり振興協議会により第４回通常総会及びせり栽培講習会が開催され，関係機関として普及センターも参加しました。

総会では，令和２年 12 月に「河北せり」としてＧＩ（地理的表示）を取得した後，新型コロナの流行により本来のＰＲ活動ができなかったが，関係機関との連携で販売促進のためのレシピパンフレットの作成や仙台でのＧＩフェアの参加等に取り組むことができ，令和４年産も情勢を見ながら販売促進活動を進めていきたい旨報告がありました。

栽培講習会では宮城県農業・総合園芸研究所野菜部の髙橋技師より令和３年産の生育の特徴やせり栽培の病害虫防除について説明がありました。会場からの質疑応答も行われ，せり栽培への理解がより深まりました。

普及センターでは今後も技術指導を通じて，産地の育成強化支援を行います。

○「なとり･ぐるっと親子講座夏野菜もぎとり体験」が開催されました

令和4年７月 28 日
亘理農業改良普及センター

名取市地域農産物等消費拡大推進協議会（事務局：名取市農林水産課）が主催する「なとり・ぐるっと親子講座夏野菜もぎとり体験」が令和４年７月 25 日に開催され，運営支援のために亘理農業改良普及センターも出席しました。

参加した 15 家族 53 名の親子は，名取市内のほ場で旬を迎えた「とうもろこし」,「きゅうり」,「トマト」の夏野菜の収穫を楽しみ，講師を務めた生産者から栽培の苦労や野菜の美味しい食べ方を学びました。「きゅうりやトマトは水分が多く，夏バテ防止に最適な食材です。ジュースを飲むより，きゅうりやトマ

トを食べましょう。」の説明に笑いが起きながらも，納得する顔が見られました。
　移動のバスの中では，事務局から出題された野菜クイズに子供達が元気に回答するなど，楽しみながら野菜の勉強ができたようでした。また，採れたて野菜を購入できる「いろどりなとり産直マーケット」や「産直ネットワークなとり」の紹介があり，参加した家族は，地元の野菜について理解を深めた様子でした。
　普及センターでは，管内の野菜産地の活動を今後も支援してまいります。

○JAみやぎ登米りんご生産部会の病害虫防除講習会及び現地検討会が開催されました

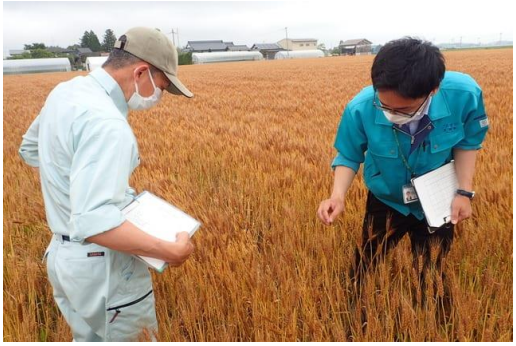
令和4年７月28日
登米農業改良普及センター

　登米管内は，ＪＡみやぎ登米りんご生産部会員 27 人を中心に約 25ha でりんごを栽培している県内有数のりんご産地です。当部会は新型コロナ感染症の影響で活動を自粛していましたが，今年度から活動を再開し，令和４年６月 22 日に病害虫防除講習会，７月 21 日に現地検討会が開催されました。
　病害虫防除講習会では，普及センターから「農薬・殺虫剤について」をテーマに基本的な薬剤の特性等について講義しました。現地検討会では，中田町のりんごほ場を視察しました。今年は開花中の降雪，６月中の梅雨明け，７月の大雨など気象変動が大きい中，病害虫の発生は少なく果実肥大も例年並みと生育は順調に進んでいます。また，草刈機実演会も合わせて開催され，ラジコン草刈機及び幹を挟み込んで草刈りできるクワガタモアーの実演があり，参加した部会員が実際に操作して体験するなど有意義な検討会になりました。
　当普及センターでは安定したりんご生産ができるよう引き続き支援していきます。

⑤収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援

○令４年産の小麦，まもなく収穫時期を迎えます！

令和4年７月1日
大崎農業改良普及センター



　大崎普及センター管内では，大崎市古川を中心にシラネコムギの生産が行われています。令和４年産の小麦は，昨年 10 月下旬頃に播種が行われ，やや生育が遅れ気味であったものの，間もなく収穫時期を迎えます。
　令和４年６月 24 日には，ＪＡ古川主催の「小麦刈取り適期判定会」が開催されました。判定会では子実の水分や色，硬さなどをほ場ごとに確認し，収穫の適期がいつになるのか確認を行いました。普及センターからは，ムギ類赤かび病のまん延を防止するために，適期収穫や速やかな乾燥作業の実施を呼びかけました。
　普及センターでは，麦類の高品質安定生産に向けて引き続き支援してまいります。

○令和4年産小麦の成熟期調査を行いました。

令和4年７月1日
大崎農業改良普及センター

　令和４年６月 27 日，令和４年産小麦の成熟期調査を行いました。
　県内６普及センターでは，麦作生産者に適切な栽培管理を指導できるよう，それぞれの地域で調査を実施しています。大崎農業改良普及センターでは，大崎市古川でシラネコムギの調査を行っています。
　成熟期調査では，小麦の稈長・穂長・穂数の計測及び収量調査用のサンプルの刈取りを行いました。令和４年産の小麦は，穂長は平年を下回ったものの，稈長は平年並，穂数は平年を上回る結果となり，順調な生育となりました。
　今回の調査結果をもとに，令和４年産小麦の特徴

を分析し，翌年以降の麦類の安定生産に向けた技術指導資料作りを行う予定です。

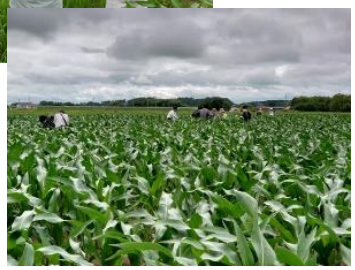
○子実用とうもろこしが発芽しました！
令和4年７月4日
石巻農業改良普及センター

令和４年６月８日に石巻市桃生で子実とうもろこしの苗立ち調査を行いました。

子実用とうもろこしは輸入飼料価格変動に左右されない国産家畜飼料として注目されています。調査を行ったのは５月 25 日に播種をした子実用とうもろこしで，苗立ち本数や草丈などを調査しました。調査を行ったいずれのほ場でも子実用とうもろこしは良く発芽し４～７ｃｍほどに生長しており，発芽率も雑草管理の状況も順調な様子が見られました。今はまだ小さく葉色も薄い緑色ですが，生長すると背丈は２ｍを越し葉色も深い緑色になります。次回は子実用とうもろこしが膝丈まで生長した頃に除草剤散布前の生育調査を行う予定です。

今後も当普及センターでは子実用とうもろこしの生育調査を行い，転作作物としての有用性を検討していきます。

○子実用とうもろこしの生育調査を行いました
令和4年７月13 日
石巻農業改良普及センター



令和４年７月７日に石巻市桃生地区において，今年度ＪＡいしのまきが実施している子実用とうもろこしの播種後 40 日調査を行いました。当日は，実証ほを担当する生産者（２法人）をはじめ，東北農業研究センター（農研機構），ＪＡいしのまき，当普及センター，当所畜産振興部，農業農村整備部，農業・園芸総合研究所など関係者 15 人が参加しました。当普及センターでは，子実用とうもろこしの生育調査を実施するのは初めてのことから，東北農業研究センター研究員のご指導のもと，調査項目や調査方法を確認し，草高，葉数，葉色を測定しました。生育は，一部で湿害と思われる箇所が見られたものの２ほ場とも概ね順調で，雑草もよく抑えられていました。調査後の意見交換では，後作の作目や施肥方法の質問や成績検討会開催の提案などがありました。今後は，台風や獣害などに注意しながら，生育を観察してくこととなります。次回の調査は，７月下旬の絹糸抽出期の予定です。

当普及センターでは，ＪＡいしのまきの子実用とうもろこしの実証試験を引続き支援していきます。

○「萌えみのり」の現地検討会が開催されました！
令和4年７月 19 日
石巻農業改良普及センター

令和４年７月５日にＪＡいしのまき主催の業務用水稲品種「萌えみのり」の現地検討会が開催されました。「萌えみのり」は 2006 年に農研機構東北農業研究センターで育成された水稲品種で多収・良食味が特徴です。石巻管内では約 33ｈａの栽培が行われています。本検討会では，ＪＡいしのまき米穀課職員，「萌えみのり」生産者，当普及センター職員，（株）ヤマタネ社員等の関係者約 11 人が集まり，石巻市蛇田と美里町の２ほ場を巡回して生育状況と追肥の量と時期について検討を行いました。両ほ場の「萌えみのり」の生育は順調であり，現状では目標の収量（660ｋｇ／10ａ）が見込めそうです。

「萌えみのり」は多収であることから業務用米として回転寿司店や牛丼店に供給されていますが，近年では良食味であることを生かし，関東の量販店でも取り扱われています。

当普及センターは，これからも「萌えみのり」の栽培を支援していきます。

○ささ結びブランドコンソーシアム幹事会が開催されました

令和4年７月22日
大崎農業改良普及センター

６月13日ささ結びブランドコンソーシアム幹事会が開催されました。ささ結びブランドコンソーシアムはＪＡ古川，ＪＡ新みやぎ，木徳神糧(株)，大崎市寿司業組合，寒梅酒造，県古川農業試験場，当所等で構成され大崎市が事務局を担っている組織です。

昨年同様に新型コロナウイルス感染症対策をした上で積極的にPRイベントを実施することが検討され，９月には新米試食会，11月にはささ結の食味コンテストであるささ王決定戦を開催すること等が話し合われました。

東海・関東圏の大手寿司チェーン店からささ結を更に仕入れたいとの話題等もあり，今後の展開が期待できる情報交換もありました。

当所では，引き続き地域のブランド米の推進に協力していきます。

○令和４年度「登米地域だて正夢栽培塾」を開催しました

令和4年７月25日
登米農業改良普及センター

県内の「だて正夢」の作付面積は714haで，そのうち登米管内では74ha作付されています。

「だて正夢」の栽培技術の向上を図るため，令和４年７月８日に，宮城県米づくり推進登米地方本部の主催で「登米地域だて正夢栽培塾」を開催しました。当日は管内の「だて正夢」生産者８人と関係機関合わせて22人が参加しました。

栽培塾では，普及センターより「だて正夢」の生育状況と今後の栽培管理について説明し，主に生育に応じた追肥の実施について呼びかけました。

また，農業振興部地域調整班より過去３か年の管内の「だて正夢」生産状況について情報提供しました。

過去実績から見ると，平均単収は増加傾向にありますが，現状は540kg/10aを超えるのは２割程度と単収のばらつきが大きいため，単収を増やすためには，基本技術の徹底，積極的な追肥の実施などが重要であることを説明しました。

続いて，普及センターの栽培普及展示ほを会場に，草丈，茎数，葉色を測定し，倒伏診断指標を用いた追肥判断の実演を行いました。

普及センターでは，今後も「だて正夢」の栽培技術向上に関する支援を行ってまいります。

○金のいぶき・だて正夢の現地検討会を実施しました

令和4年７月26日
大崎農業改良普及センター

７月13日にＪＡ加美よつばで「金のいぶき・だて正夢現地検討会」が開催され，大崎普及センター職員が講師として出席しました。米価が下落している情勢下で，需要のある売れる米として宮城県が推進している品種です。

まずは座学での研修で今年度の稲作の生育状況や，両品種の特徴に応じた栽培管理について説明しました。

現地のほ場では，幼穂の発育状況や葉色などの生育状況を見ながらの追肥など，適切な管理の徹底をお願いしました。参加者からは，「品種ごとに特徴が異なり栽培は難しいが，管理をしっかり行い，収量・品質ともにいいものを収穫したい」との意気込みが聞かれました。

普及センターでは引き続き需要のある売れる米づくりを支援してまいります。

○大崎の米『ささ結』栽培現地検討会が開催されました

令和4年７月27日
大崎農業改良普及センター

令和４年７月 22 日に大崎市で生産者や関係機関など約 20 名が参加し,「ささ結(東北 194 号)」栽培現地検討会が開催されました。検討会では古川農業試験場作物育種部より「ささ結」の食味・品質を確保する栽培のポイントについて，大崎農業改良普及センターより水稲の生育状況と大雨に対する技術対策について説明しました。

また，大崎市で取り組んでいる世界農業遺産認証農産物の取組要件である田んぼの生きもののモニタリングの手法について，自然環境専門員より説明がありました。栽培農家からは,「ささ結」の生育状況や栽培方法等について報告がありました。

「ささ結」は寿司店等から高い評価を受け，増産を求める声が大きく，さらなる生産拡大と品質向上が期待されています。

農業改良普及センターでは，需要の高い地域ブランド米「ささ結」の生産拡大を支援していきます。

○「だて正夢」・「金のいぶき」現地検討会を開催しました

令和4年７月 28 日
栗原農業改良普及センター

令和４年７月 13 日に，水稲品種「だて正夢」及び「金のいぶき」を対象とした検討会をＪＡ新みやぎ築館支店で開催しました（主催：宮城県米づくり推進栗原地方本部）。検討会は現地ほ場での開催を予定していましたが，悪天候のため室内での検討となりました。

はじめに，普及センターから「だて正夢」及び「金のいぶき」の生育状況や今後の栽培管理のポイントなどを説明しました。両品種ともに，収量を確保するためには追肥の実施が重要であることから，葉色を見ながら追肥を実施するよう指導しました。

続いて，（株）ケーエスより，最新のドローンを利用した農薬散布や，追肥の実施について情報提供していただきました。

参加した生産者は，栽培管理の説明を受け，今年の収量・品質の確保に向けて意欲を高めていました。「だて正夢」及び「金のいぶき」の安定生産が図られるよう，普及センターでは今後も関係機関と連携して支援していきます。

⑥時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給支援

○「蔵の華」の栽培研修会を開催しました。

令和4年 7 月1日
気仙沼農業改良普及センター

令和４年６月 28 日，気仙沼市廿一地区で，酒米の栽培を行う清流「蔵の華」廿一会を対象に，栽培研修会を行いました。

同会は市内の酒造会社 2 社と酒造好適米「蔵の華」の契約栽培を行っています。棚田風景が広がる同地区で，先月には酒造会社や市，ＪＡ，一般市民と連携し田植え体験会を実施するなど，中山間地の地域振興に向け積極的に取り組んでいます。

当日は，高品質な酒米生産に向けて会員のほ場を相互に巡回し，生育状況の確認と今後の管理についての確認を行いました。

６月上旬は低温傾向で推移し，生育の遅れが懸念されましたが，会員の丁寧な栽培管理もあり，その後は気温の上昇とともに順調に生育しています。目標の茎数が確保できたほ場は，順次中干しを開始していくことや葉色に応じた追肥の実施について確認しました。

本年度から新規に参加された会員も，先輩生産者のほ場を確認しながら管理方法について理解を深めることができました。

次回は９月上旬に収穫適期の確認を行い，さらなる多収・高品質化を目指していきます。

○水稲採種ほの審査を実施しました

令和4年 7 月 20 日
大崎農業改良普及センター

今年も水稲採種ほの審査が始まりました。第１回は６月 29 日から７月８日にかけて，採種ほ場の場所の確認や種子伝染性の病気の有無などを確認する

「予備審査」を実施しました。採種とは農家が使うイネの種籾を作ることで，農業改良普及センターの普及指導員が種子審査員として審査をします。

今後あと２回ほ場での審査を行い，刈取り後に発芽率や異種・異品種の混入がないことを確認する生産物審査に合格して初めて「たね」として出荷されます。

採種ほから生産された種籾が多くの農家に供給され，来年の種子として使われるので種子生産は重要です。農業改良普及センターでは多くの時間と人員を配して主要農作物の種子の審査業務に当たっています。

２．持続可能な農業・農村の構築

①地域資源の活用等による地域農業の維持・発展

○農事組合法人うぇすとファーム仙台による「たまねぎ収穫体験」テスト開催！
令和4年７月13日
仙台農業改良普及センター

仙台市の西部に位置する倉内・大針地区では，地域農業の維持・発展に向けて，平成29年度より農地整備事業の導入に取り組み，令和４年度の秋より面工事が始まります。農地整備後に当地区の農業を担うため，令和３年２月に「農事組合法人うぇすとファーム仙台」が設立されました。

当法人では，現在，農地整備後にスムーズに地域営農できるよう様々な動きを実験的に取り組んでいます。今回はその一つとして，仙台市の中心部に近いという地の利を活かし，たまねぎ収穫体験のテスト開催を行いました。

テスト開催に協力していただいたのは，倉内・大針地区に最も近い「錦ヶ丘」団地の30代の親子連れ7組です。詰め放題の収穫ネットを500円で販売し，子供たちは暑い中もくもくと集中してたまねぎを収穫していました。また，収穫したたまねぎは必ず持ち帰る等の約束事も説明し，スムーズに行なうことが出来ました。体験料金が安かったなどの課題は残りましたが，今回のような経験を積み重ね，収穫体験を今後の営農計画に位置づける予定です。

普及センターでは，今後も当法人の営農確立に向け支援していくこととしています。

○南三陸町で「田んぼの生き物観察会」が開催されました
令和4年７月15日
気仙沼農業改良普及センター

令和４年７月８日，南三陸町入谷地区の新童子下集落において，南三陸町立入谷小学校３・４年生22名を対象とした田んぼの生き物観察会が開催されました。講師には，農業と自然環境が共生できる農村自然環境の復元を目指して活動している「ナマズのがっこう」の三塚事務局長をお迎えしました。三塚氏からは「入谷地区の水田には，環境に大きな影響を与える外来生物であるアメリカザリガニやウシガエルがいません。県内でもとても希少な環境なんですよ。」と入谷地区の自然環境の特徴について説明されました。

観察会が始まると，子供達は，水田や畦畔・水路にいる昆虫やカエル・イモリ等を採集しました。また，昨年よりタニシが多く見られ，新童子下集落の阿部代表から「みんなが農薬の使い方等も気をつけて，正しく使うようになり，タニシも戻ってきたように思う。」と説明しました。その後の質問・感想の時間には「地元の人達が豊かな環境を作っていることが分かった。」と感想を述べる子供もおり，自分達が住んでいる地域の自然環境の豊かさを再発見したようでした。なお，採集したカエル等は観察会終了後，自然に帰しています。

観察会終了後，南三陸町産米のおにぎりが児童達に振る舞われました。「お昼に給食も出るから，１人２個までにしなさい！」と言う先生の注意を振り切り，もっと食べようとする子供がいるほど，美味しかったようです。

○世代を超えた女性農業者の交流を行いました
令和4年７月22日
石巻農業改良普及センター

女性農業者向けキャリアアップ事業の一環として，７月 13 日に石巻地域生活研究グループ員や若手女性農業者のベジ☆hope 会員（12 人）を対象に，ＪＡいしのまき河南総合センターを会場に，地元食材を使った料理講習会を開催し，世代を超えた女性農業者の交流を行いました。

今回の調理実習のテーマは「米・米粉」で，フードコーディネーターの色川恭子氏を講師に迎え，スタミナ満点の「炊き込みビビンバ」とＪＡいしのまきの「さらりんこめ粉」を使用した「バナナマフィン」と「ういろう」を作りました。

当日は 4 つの班に分け，ベテラン女性農業者の中に若い女性農業者が入る形で，和気あいあいと調理を通した交流を行いました。

若手女性農業者からは，石巻の昔ながらの料理を学びたいとの声もあり，生活研究グループ員からベジ☆hope 会員へ伝達する形で今後計画を立てる予定です。

今後も，普及センターでは様々な行事を通して，女性農業者の交流を進めていきます。

○食品表示･包装資材セミナーを開催しました
令和4年 7 月 29 日
美里農業改良普及センター

美里管内では自家生産物を利用し農産加工に取り組む女性農業者が多く，普及センターでは研修会等を通し女性の活躍を支援しています。

近年，農産加工を巡る関係法令の改正，施行が次々と行われており，勉強したいという要望が女性農業者から寄せられていました。

そこで，令和 4 年 7 月 26 日に食品表示や包装資材について学ぶ研修会を美里農業改良普及センターにおいて開催し，女性農業者 12 名が参加しました。

はじめに，食品表示用ラベルプリンターメーカーから，食品表示のルールや改正のポイントの講義を行いました。間違いやすい項目について事例を示しながら解説いただき，参加者は時々うなずきながら説明に聞き入っていました。

次に，食品包装資材業者２社から，包装する商品の特性や保存条件に応じて包装資材を選択することや，最近のトレンドについて，サンプルを用いた分かりやすい説明の講義を行いました。

座学の後は別会場で包装資材や機械の展示を行い，参加者は実際に機械を動かしてみたり，包装資材を前に質問や相談を行うなど，終了時間を超過するほどの熱の入った様子で関心の高さがうかがわれました。

普及センターでは，今後も研修会等を通じて女性農業者の資質向上と活躍を支援します。

②環境に配慮した持続可能な農業生産

○環境に優しい農業の強い味方「アイガモロボ」等スマート農機が稼働しています！
令和4年 7 月1日
大崎農業改良普及センター

大崎市では，国が掲げる「みどりの食料システム戦略」に対応して，「大崎市有機農業・グリーン化推進協議会」を４月に立ち上げました。協議会の主な活動として，スマート農機を導入して自然と共生する農業の普及を図る取組が行われています。

事業の中で実証するスマート農機は，水稲作付初期の雑草を抑制するアイガモロボ，無線で操作可能なロボット草刈り機，労力低減を図る水田の水位遠隔監視システムです。管内の一部地域は協議会の平地部会に含まれ，実証を担当する生産者の水田では，水面を優雅に進むアイガモロボの姿が見られました。

アイガモロボはソーラー発電で稼働し，２本のスクリューで表層の泥を巻き上げながら進むことで濁りを発生させ，光を遮断することで雑草の発生を抑える仕組みです。今年度は全国各地でアイガモロボの現地試験が行われており，管内でも複数の水田でアイガモロボの活躍が見られました。

普及センターでは，協議会メンバーの一員として，技術実証や効果検証を行いながら，環境に優しい農業技術の普及に取り組んでいきます！

○グリーンな栽培体系への転換サポート推進会議を開催しました！
令和4年 7 月5日
石巻農業改良普及センター

令和４年６月27日にＪＡいしのまき情報センターにてみどりの食料システム戦略推進交付金事業の一つであるグリーンな栽培体系への転換サポート推進会議を開催しました。みどりの食料システム戦略とは，食料・農林水産業の生産力向上と持続性をイノベーションを通じて，実現する戦略のことです。管内では本事業において堆肥やバイオ炭を活用した持続的な水稲栽培体系を構築できないか実証・検証を進めています。本会議は取組に参加している生産者と当普及センター職員やＪＡいしのまきの営農センター職員，東北大学院農学研究科附属複合生態フィールド教育研究センターの教授など各関係者約20人が集まる初めての機会で，「みどりの食料システム戦略」についてや水田に堆肥やバイオ炭を施用した場合の利点などについて説明と意見交換が行われました。

当普及センターはこれからも，環境にやさしく持続的で安定した食料供給ができる農業を支援していきます。

○令和４年度第1回JA仙台稲作部会協議会が開催されました。

令和4年７月12日
仙台農業改良普及センター

令和４年６月28日，令和４年度ＪＡ仙台稲作部会協議会（ＪＡ仙台の各地区稲作部会員の代表者で構成）がＪＡ仙台本店で開催され，各地区の部会員やＪＡ職員が参集しました。

報告事項として，米穀情勢について全農宮城県本部から，今年度の水稲共同防除や出荷契約状況，食味コンクールについてＪＡ仙台から，それぞれ説明されました。普及センターからは，６月20日時点の水稲生育状況と今後の栽培管理について情報提供を行いました。協議事項としては，稲作部会の役員改正及び令和４年から６年の環境保全米作付実施計画について検討が行われました。

ＪＡ仙台稲作部会では，昨今の米価下落と世界的な肥料高騰を受けて，化学農薬や化学肥料の使用量を通常の半分以下に減らす，環境保全米の取組の推進を検討しています。普及センターでも「安全安心な農畜産物の供給支援」を行っており，環境にやさしい米づくりについて，ＪＡと連携して支援していきます。

○「グリーンな栽培体系」の現地検討会とドローン追肥を行いました

令和4年７月12日
登米農業改良普及センター

「みどりの食料システム戦略」に基づき，環境配慮や省力化を進めた「グリーンな作物栽培体系」の検証事業が，今年度全国各地で展開されています。登米地域では，水稲におけるプラスチックコート肥料の代替技術や追肥の省力化等を検証しています。

令和４年７月７日に，一部の実証ほにおいて中間検討会とドローンによる追肥作業の実演が行われ，会場周辺の生産者と関係機関 10 名が参加しました。

普及センターからは，水稲の生育経過と現在の生育状況について説明しました。６月前半の低温や生産者による深水管理の影響のため，生育量が慣行より少ない実証ほがある一方で，慣行と同程度の生育量となっている実証ほもありました。

ドローン追肥は，７月３日時点で葉色の低下が認められたほ場でのみ行いました。１回10分の飛行で30a あまりを散布できるドローンに，参加者は興味津々でした。

なお，この日の追肥を見送った実証ほにおいては，後日改めて現地検討会と追肥実演を実施する予定です。

普及センターでは，ＪＡみやぎ登米とともに，この新しい栽培体系の検証を進めてまいります。

○志波姫地区環境保全米栽培現地検討会が開催されました

令和4年７月15日
栗原農業改良普及センター

令和４年７月７日（木）にＪＡ新みやぎ志波姫有機米栽培協議会が主催する環境保全米栽培現地検討会が開催され，会員約 30 名が参加しました。最初に，現地ほ場においてＪＡ担当者から耕種概要等の説明を受け，環境保全米ひとめぼれの生育状況を確認しました。続いて，普及センターから，管内の水稲生育状況と今後の栽培管理について説明しました。

本年は６月上旬の低温により生育がやや遅れていましたが，６月下旬以降の高温により生育は平年並まで回復したこと，また，まもなく幼穂形成期を迎えることから，葉色に応じた追肥の実施，病害虫の適期防除等について指導しました。

現地検討会に参加した生産者は，環境保全米における食味向上・安定生産に対する決意を新たにしていました。

普及指導員が県内9か所の普及センターで，農業者を支援しています。

＜大河原＞
〒989-1243
大河原町字南 129-1
TEL:0224-53-3519

＜亘　理＞
〒989-2301
亘理町逢隈中泉字本木9
TEL:0223-34-1141

＜仙　台＞
〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL:022-275-8320

＜大　崎＞
〒989-6117
大崎市古川旭四丁目1-1
TEL:0229-91-0727

＜美　里＞
〒987-0005
美里町北浦字笹舘5
TEL:0229-32-3115

＜栗　原＞
〒987-2251
栗原市築館藤木5-1
TEL:0228-22-9404

＜登　米＞
〒987-0511
登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5
TEL:0220-22-8603

＜石　巻＞
〒986-0850
石巻市あゆみ野5-7
TEL:0225-95-7612

＜気仙沼＞
〒988-0181
気仙沼市赤岩杉ノ沢 47-6
TEL:0226-25-8068

＊各農業改良普及センターには，「地域の食と農の相談窓口」を設置しております。食や農に関して知りたいことがありましたら，上記連絡先にお問い合わせください。

みやぎの農業普及現場　NEWS LETTER　No.186
発行日:2022 年8月 23 日
発　行:宮城県農政部農業振興課
編　集:宮城県農政部農業振興課普及支援班

TEL:022-211-2837　FAX:022-211-2839
E-mail ： gbfs@pref.miyagi.lg.jp